



Kaselehlie

rahn lap
October-09



ミクロネシア連邦の教育事情

こんにちは。ミクロネシア連邦、ポンペイ州、アワック小学校で小学校教員という職種で青年海外協力隊として派遣されている小林未季と言います。少しずつ無理なく通信を続けていきますので不定期ですが、楽しみに待っていてくれたら嬉しいです。さて、今日は、私のいるミクロネシア連邦の教育事情について紹介します。ミクロネシア連邦の教育制度には、3～5歳の幼児教育、6～13歳の初等学校（1年生～8年生、日本の小学校～中学校）14～18歳の中等学校（9～12年生、日本の高校）、高等教育（日本の短大や大学など）の4つのレベルがあります。この国唯一の高等教育機関は、日本の短期大学のようなところです。しかしながらミクロネシア連邦は、アメリカと連携しており留学や移住することについてアメリカ VISA を必要としません。そのため、中等教育で良い成績を修めた生徒は、ハワイ大学やグアム大学へと進学することも多いようです。そのため人口の流出も課題なのとか。英語を公用語とするので世界での活躍もしやすい。けれども、国としてはミクロネシア連邦を引っ張る人材を育てたい。小さな島国の難しさもあるのだらうなと思います。



えんじ色の制服を着ているのはECEと呼ばれる就学前の子どもたち。1年生になる1年前から入学予定の小学校と同じ敷地内に設けられた一室でゆったりと勉強します。ここだけは給食が提供されています。8年の小学校生活をへて、高校、大学へと学校教育がつながっていきます。

